

防犯と地域活動の連携について

県下で結成されているまちづくり防犯グループのなかには、防犯パトロールなどの防犯活動だけではなく、独居高齢者の見守り活動や防災活動など他の地域活動も併せて行っているグループもみられます。

これらの活動は、一見別々の活動のようですが『安全安心なまちづくり』に通じるという点において、防犯活動と共通する活動といえます。

そこで、今後の防犯活動の活性化を図り、より効率的な活動を行うために、防犯活動と他の地域活動との連携について考えてみましょう。

防犯活動の活性化

他の地域活動と連携することで、これまで防犯活動には参加してこなかった人達にも関心を持ってもらうことができるほか、合同で活動することなどができれば、活動人員の確保にも繋がります。

負担の軽減

防犯活動をはじめとする様々な地域活動を行うのは、参加者にとって大きな負担となりますが、1つの活動で複数の効果が得られるように、活動を組み合わせていくことができれば、負担軽減にも繋がります。

1 独居高齢者の見守り活動

高齢化が進み、多くの地域で取組みが活発になりつつあるのが、独居高齢者の方の見守り活動ですが、独居高齢者の方は、周囲も被害に気付きにくく、振り込め詐欺などの犯罪に狙われやすいという点があります。

そこで、見守り活動を通じて犯罪情報を提供し、本人の防犯意識を高めたり、気軽に相談ができる関係を構築して、周囲が生活の変化に気付くことで、これら犯罪被害を未然に防げる可能性が高くなります。



活動事例として、防犯パトロール中に独居高齢者宅に立ち寄って声を掛けて回るグループや、高齢者対象の防犯講習を実施するグループなどがみられますが、活動を通じて、独居高齢者の方にも、防犯活動に参加してもらうことができれば、本人やグループ双方ともに、より大きな効果が得られるのではないのでしょうか。

2 環境美化活動

割れた窓や落書きを放置することで犯罪が広がっていくという「割れ窓理論」にあるように、ゴミや放置車両などが無く、手入れが行き届いた地域には、犯罪者は寄りつき難いものです。

さらには、地域住民や子どもたちの目の前で、ゴミ拾い等の環境美化活動を行うことで、より活動が見えるものになるほか、地域全体のモラルが向上し、より一層安全安心なまちづくりにつながります。



そこで、環境美化活動を個別に実施するだけでなく、ゴミ袋とゴミバサミを持参して防犯パトロールを行えば、一度の活動で防犯と環境美化の二つの目的が達成されるとともに、地域住民が自ら地域の防犯と美化に取り組む姿勢を内外に強くアピールすることができ、一石二鳥の効果を得られます。

3 防災活動

「地域の絆」とも呼ばれる地域住民の連携は、地域の防災力にとって、非常に重要な要素ですが、地域住民の連携というものは、一朝一夕で出来るものではなく、日頃から連携を深めておく必要があります。

しかし、毎日防災訓練などを実施することは、現実的に不可能ですので、日頃は防犯活動に取り組むことで、地域の連携を深めておけば、いざというときに地域の防災力も最大限に発揮することができるでしょう。



日常の防犯活動による連携以外でも、災害時の要援護者の支援体制やグループ内の連絡体制などのネットワークを、普段は高齢者やグループ内での防犯情報の提供などに随時活用しておけば、防犯情報を迅速に伝達できるとともに、管理作業も容易に行うことができ、緊急の際に使い物にならない、という心配もなくなるはずです。

今回のテーマは、より総合的な『安全安心なまちづくり』に重点を置いたものとなっていますが、これらの活動は、犯罪に強いまちを作り上げるとともに、地域住民の防犯意識・体感治安の向上にもつながります。

ただ、あくまでこれらの活動は『出来る範囲で無理なく行う』ことが重要であり、都市部・沿岸部・山間部など、それぞれの地域で必要となる活動も異なるものと考えられますので、住民で今後の課題や現状を話し合い、地域の実情に応じた形で活動されてはいかがでしょうか。